

2021. 10. 15

発行: 桜本保育園

044(288)2545

えんだよい 10がつごう



10月^{がつ}は い^{はい}げんきな こどもたちのこえが ひびいています。ながいあいだ おやすみしていた おともだちも すこしずつ もどってきてくれています。

風^{かぜ}が心地^{こころ}よくなり おさんぽ^{きせつ}の季節^{きせつ}が やってきました。

こどもたちにとって おともだちと 手^てをつないで 歩く^{ある}のは たいへんなことです。おともだちに ひっぱられたり ひっぱってしまったりを くりかえしながら 手^てをつないで まっすぐ 歩^{ある}けるようになります。まだ ひとりで 歩^{ある}くことに せい^{せい}い^いい^いぱいの 0.1歳児^{さいし}は お散歩^{さんぽ}カーに乗^かって 公園^{こうえん}に行^いってから おもいきり 歩^{ある}いたり 走^{はし}ったりします。早^{むぐんぶあ}く^くはさんは さく^{しょうがっこう}ら小^{こうてい}学^{とも}校^ての 校^{さんぽ}庭^はを お友^{むぐんぶあ}だ^あちと 手^てをつないで 散^{さんぽ}歩^はするよう^{むぐんぶあ}に なりました。11月^{がつ}ぐらいに は 道^{どうろ}路^{とも}を お友^{とも}だ^てちと 手^てをつないで ある^{ある}くよう^くに なるのでし^しょう^ま。

保^ほ育^{いく}園^{えん}の周^{まわ}りは 車^{くるま}が たくさん 通^{とお}ります。ち^ちょ^ちとある^{ある}い^いては 「車^{くるま}が来^くるから とま^とつて」の 繰^くり^{かえ}返^{かえ}し。路^ろ上^{じょう}駐^{ちゅう}車^{しや}して^{して}いる車^{くるま}が あると 道^{どうろ}路^ろの真^{まん}ん^{なか}中^{なか}を ある^{ある}くこ^ことも あり^あります。幼^{よう}児^じにな^なると お友^{とも}だ^ちのこ^ことも 心^{しん}配^{ぱい}し^しながら 車^{くるま}を よ^よけ^けたりし^しながら とお^{とお}の公^{こう}園^{えん}ま^まで 歩^{ある}くよう^{よう}にな^なります。自^し然^{ぜん}と 天^{てん}使^しさん^{さん}が 左^{ひだり}手^てで小^{ちい}さい^{さい}こ^こと 手^てをつな^{つな}ぐ姿^{すがた}は 素^す敵^{てき}です。

10月^{がつ}のよ^よてい

9日^{にち} 職^{しやく}員^{いん}夏^か季^き研^{けん}修^{しゅう}

20日^{にち} 園^{えん}児^じ健^{けん}診^{しん} (0・1・4歳^{さい}児^じ)

に ゆー す あるりむ ばり た
News・おしらせ・알림・balita

★退^{たい}園^{えん}しま^した。

ちゅうりっぷ 1名^{めい}

おうち^{うち}の都^{つごう}合^{ごう}で 退^{たい}園^{えん}しま^した。



☆ みんなが あつまって おこ^うな^なう 運^{うん}動^{どう}会^{かい}を するこ^ことを あき^あら^らめ^めしま^した。

じつは 休^{きゅう}園^{えん}にな^なったのは 1回^{かい}で^でしたが 8月^{がつ}・9月^{がつ}は おうち^{うち}のひ^ひと こども^{ども}たち 職^{しやく}員^{いん}と 新^{しん}型^{がた}コ^こロ^ろナ^なウ^うィ^いル^るスに 感^{かん}染^{せん}した人^{ひと}たち^{たち}が たく^たさん い^いま^まし^した。

そ^そん^んな^なな^なか こども^{ども}たち^{たち}や おうち^{うち}のひ^ひとに と^とつて たの^{たの}しみ^{しみ}な イ^いベ^べン^んト^とである 運^{うん}動^{どう}会^{かい}を どう 安^{あん}心^{しん}して 安^{あん}全^{ぜん}に 行^{おこな}え^えるだ^だろ^ろう^うか ま^また お^おや^やす^すみ^みし^して^てい^いる こども^{ども}たち も た^たく^くさん^{さん}い^いる な^なか^かで 準^{じゅん}備^びは でき^{でき}るだ^だろ^ろう^うか^かと 話^はし^しあ^あい^いを 重^{かさ}ね^ねま^まし^した。こ^こん^んか^かい は み^みん^んな^なが あ^あつ^つま^まつ^つて お^おこ^こな^なう 運^{うん}動^{どう}会^{かい}で^では^はな^なく ほ^ほい^いく^くえ^えん^んで さ^さー^きき^きつ^とと や り^りず^ずム 音^{おん}量^{りやう}を た^たの^しん^{しん}で^でい^いる 姿^{すがた}を ど^どう^うが 動^{どう}画^がで お^おうち^{うち}のひ^ひとに と^とど^どけるこ^ことに^にしま^した。

コ^こロ^ろナ^な禍^かの中^{なか} 楽^{たの}しみ^{しみ}に^にし^して^てい^いる い^いつ^つも^ものこ^ことが でき^{でき}な^なく^くて 寂^{さび}しい^{しい}気^きも^もし^しま^ます^すが 新^{あたら}しい^{かたち}の 楽^{たの}しい^{しい}こ^ことが でき^{でき}るよ^{よう}うに 工^く夫^{ふう}し^したい^{たい}と思^{おも}い^いま^ます。

動^{どう}画^が配^{はい}信^{しん}が う^うま^まく^くでき^{でき}るか 心^{しん}配^{ぱい}です^すが た^たの^しみ^みに ま^まつ^つて^てい^いて^てく^くだ^ださ^さい。



こんげつ せいく
今月の聖句

がっ ぶれす ゆう
「God bless you」

鄭富京(ちよん・ぶきよん)

「主なる神は、土(アダマ)の塵で人(アダム)を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。」(創世記2章7節)

10月、残暑も和らぎ心地よい秋風が吹き始め、秋を感じる季節となりました。10月と言えばまず一番にスポーツが思い浮かびます。子どもの頃、わたしは運動会が楽しみでした。

運動会で人気なのは、個人競技もありますが、なんと言ってもリレー、二人三脚、綱引きなどですね。さらにダンスなどは運動会を盛り上げ、感動で締めくくってくれます。どれも息を合わせなければうまくできませんし、息を合わせば、パフォーマンスを完成させることができ、達成感も大きく人々をも感動へと導くことでしょう。

今月の聖書に、人は神によって土の塵で形づくられ、その鼻に命の息を吹き入れられ、生きる者となったとあります。わたしたち人間は土の塵でつくられた弱くもろいものであるということと同時に、神に息を吹き入れられて生かされている存在であるということを考えさせられます。神さまはお造りになったすべてのものをよしとされたと聖書にあるように、神さまによって吹き入れられた息は良いものです。英語の挨拶に「God bless you」(神さまの祝福がありますように)という言葉がありますが、神さまはわたしたちをその息で満たして祝福してくださるのです。

コロナ禍を生きるわたしたちは「息の詰まる」ような状況のなか、思わず「ため息をつく」ことがあると思います。けれども「ため息」とともに吐き出した息は次に新しい息を吸い込むためのものです。新しく吸い込んだ息はもう一度わたしたちに力を与え元気を回復してくれます。きっとそれは神さまからの贈り物なのです。困難な状況だからこそ、いただいた良いもの、祝福に気づき、息を合わせて、「神さまの祝福がありますように」と励まし、励まされ、感謝のうちに過ごす一人ひとりでありましょう。ようお祈りします。

おいしく
たべてます！

